

## 文学館展示リニューアル懇話会第4回

【日 時】平成29年8月3日（木）14時00分～16時00分

【場 所】北九州市立文学館 交流ステージ

【出席者】植田構成員、江口構成員、加賀美構成員、近藤構成員、金構成員、まはら構成員（6名）

【事務局】後藤北九州市顧問、今川文学館長、今吉文芸担当課長、岩村文学館事務局長、藤原企画係長

〔事務局〕

資料1「市政モニターご意見・ご要望」、資料2「友の会 ご意見・ご要望」、資料3「北九州市立文学館リニューアル」、障害福祉団体来館時のご意見について説明。

（1）「リニューアル後に目指す姿」について

〔植田構成員〕

- ・市政モニター、友の会のご意見・ご要望でも親しみやすさを求められている。入口を入りやすくしたり、愛称をつけたり、身近にある文学館になってほしいということが伝わってくる。

〔江口構成員〕

- ・市政モニター、友の会のご意見・ご要望から、想像していたより、文学館の認知度が高い印象を受けた。
- ・常設展は固定的になってしまいがち。パネルなどはある程度入れ替えが出来る形で、焦点をあてる作家を変えるなどすれば、飽きられずにリピーターの獲得につながるのではないか。

〔加賀美構成員〕

- ・市政モニターと友の会のご意見・ご要望の違いは、文学との距離感の違いから出ている。友の会からは、文学館の存在意義を理解した上での意見。市政モニターからは、文学館を楽しみの一つとしての捉えかたになっている。
- ・文学の場としての役割を押さえしつつ、楽しい場としてゆくためには、どうしたらいいかという考え方をとりたい。

〔金構成員〕

- ・北九州芸術劇場では、市民の芸術についての敷居を低くするため、力

フェや酒場などで、シンポジウムやダンスを行ったり、色んな施設とコラボしたり、市民を巻き込んでの企画をたくさん行い、確実に市民の中に染み込んでいる印象がある。文学でも多様なチャレンジがあってもいいと思う。

- SNSなどを使ったPRが重要。情報が届くネットワーク作りが必要。情報を拡散する力がある人を巻き込む必要がある。
- 展示については、文学館の空間にだけでなく、同時にウェブとの連動をすることで、広く深く長く届けることができると思う。

#### 〔まはら構成員〕

- 上橋さんは児童文学界の巨匠。展示内容も充実しているが、本日の印象は、予想外に来館者が少ない。リニューアルして、入館しやすくすることも必要だが、展示について、意識をどう持ってもらうかが課題。
- 金子みすゞ記念館の生家、松本清張記念館の居宅の再現などのように、作家を身近に感じられる展示というのを考えてはどうか。

#### 〔後藤顧問〕

- リニューアルでは、障害者を配慮した設備が必要。
- エレベーターの位置がわかりにくいので、表示が必要。
- 次世代を担う子ども達が楽しめる文学館であってほしい。
- 所蔵コレクションの紹介・展示を希望。

#### 〔近藤座長〕

- 文学館の認知度を上げることが最初のハードル。
- アメニティー設備等の改善、所蔵コレクションの活用などが優先順位の高いものとして考えられる。
- 前三回の懇話会での意見を踏まえて修正された資料「文学館展示リニューアル概念図」についてリニューアル可能な範囲で考えてもらいたい。

### (2) 「これからの文学館のあり方等全般」について

#### 〔金構成員〕

- 評価軸は、来館者数のみではなく、満足度など、いくつかの評価軸をつくって考えた方がよい。
- 友の会を企画展のサポーターにできないか。当事者意識を持つサポーターがいると裾野が広がりやすい。

〔まはら構成員〕

- ・子どもに来館してもらうためには、まず、親御さんに来館してもらう必要がある。
- ・一つでも楽しいと思えるところがあれば、難しいという印象が和らぐし、印象が違ふ。開催中の特別企画展のインスタレーションなどが印象に残っている。

〔江口構成員〕

- ・文学館を知らない子が多い。常設展の一部を小中学生向けにして、教科書に掲載されている作家の紹介をしてもいいと思う。
- ・小中学校を招待するののも一つの手立て。夏の企画展が夏休み期間中のため、学校の教師が引率して来館することができない。

〔加賀美構成員〕

- ・リニューアルに留まらず、常に見直しをして、新陳代謝をする必要がある。

〔後藤顧問〕

- ・入口が入りにくいという結果に衝撃を受けた。

〔近藤座長〕

- ・常設展で、全ての世代への対応などが難しいのであれば、期間を限定するなど、スポット的に子どもなどへの対応もあり得ると思う。
- ・友の会の構成員が発足当初からあまり変化がないところに新陳代謝の課題があると思う。
- ・人手や予算が少ないのであれば、学生などボランティアの活用も検討してもらいたい。
- ・PDCAサイクルを回すように、繰り返しチェックできる継続的な仕組みも必要。